講義名	論文作成方法論研究					授業形態	
担当教員	濵本　隆弘	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 ３時限				
		単位数	0	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

本講義では修士論文作成を視野に入れて、問題意識から研究テーマの選定、文献の選択、調査計画の策定、仮説のたて方と論証の方法、結論の導き方の指導を行う。
演習後半は、受講者が交代で研究テーマに沿ったプレゼンテーションを行う。自分の報告だけでなく、他の受講者の報告に接し、有益な質問や助言を提供したり、また教員とのやり取りの中で学術的な研究の方法を学ぶ。

到達目標

修士論文作成の基盤づくりを通して、その進捗をもとに論文構成、論理展開など論文としての精緻化ができるようになる。

修士論文を作成する院生は、そのテーマとの関連づけを十分にとり、論文テーマの候補と参考資料・文献の検索収集を重ねつつ、演習でのプレゼンテーションを経て、論文制作の基盤づくりに努めてもらいたい。その進歩とともに、章立てや内容構成、論旨と主張の正確さと独自性そして新規制など、論文としての精緻化を目指す。

研究方法論としてフィールドワークや事例研究の手法についても取り上げる。毎回の授業計画に沿って、受講者は課題を消化し、その報告内容について質疑やディスカッションを行う。最終的には、修士論文の研究計画書をきちんと作成できるようにする。

提出課題

演習の後半から毎回受講者によるプレゼンテーションを行う。
プレゼンテーションではレジメを作成し参加者に配布の後、それを課題として提出

最後に、修士論文の研究計画書を作成し、提出

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の解説については、講義中にクラス全体に向けて行う。

評価の基準

プレゼンテーション　30%

レジメ提出　20%

研究計画書　20%

出欠調査　30%

履修にあたっての注意・助言他

後半のプレゼンテーションでは、以下のような内容が求められる。
・論文構想の報告
・先行研究の報告
・研究方法の報告

プレゼンテーションを行う場合は、パワーポイントの使用が望ましい。
・報告のレジメを作成し、参加者に配布

修士論文の研究計画書を作成し、提出

詳細は、演習開始後、受講生と相談の上決定する。

教科書

.指定しない.				

参考図書

.最新版　論文の教室.	戸田山和久	NHK出版	1540	9784140912720
.社会科学系論文の書き方.	明石芳彦	ミネルヴァ書房	2420	9784623083794
.学術論文の技法（新訂版）.	斉藤孝/西岡達裕	日本エディタースクール出版部	1650	4888883521

その他

＜プリント資料＞
コピーを配布するか、流科ポータルからダウンロードする場合もある

授業計画

１．演習と修士論文について　――――　研究の方向付け（良い研究とは何か）
２．論文を書く（１）テーマ、問題意識、仮説など
３．論文を書く（２）論文の構成、先行研究と引用、注記など
４．論文を書く（３）事例を基にした具体的考察
５．論文を書く（４）事例を基にした具体的考察
６．受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
７．受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
８．受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
９．受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（１）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
１０．受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（２）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
１１．受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（３）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
１２．受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（４）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
１３．受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（５）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
１４．受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（６）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
１５．受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（７）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）

授業計画については、履修者数によっては変更されます。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義で使用するスライドや資料は流科ポータルにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には講義スライドをポータルにアップします。

講義中にダウンロードの指示があったら、次回の講義に合わせて随時予習をすること。また、ダウンロードは前期終了時まで可能にしてあるので、復習にも使用すること。

大学院は研究を行うことが主目的であるので、修士論文完成のためにはできるだけ時間を研究活動に投入するべきである。準備学修に必要な時間というなら、すべての時間を研究に充ててほしい。最低でも予習2時間、復習2時間は必須である。

日常的に、新聞、ビジネス雑誌、Netのニュースなどをチェックして、企業に関わるタイムリーな話題に接してほしい。また、参考文献は図書館に配置されているので、それらを活用してもらいたい。

日常生活における日本語能力と大学院での研究における日本語能力は同じではないという認識を持ってもらいたい。専門分野の日本語をどの程度理解できているか、もし不十分であると思うなら、それを補う努力をしてほしい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1.論文作成方法についての基礎を学び、理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的方法論を身につけることができる。
2.修士論文のテーマを決定する際に、テーマの決定方法・研究方法や、実際の作業を経験することによって、必要な研究能力を養うことができる。
3.修士論文作成に必要な思考方法・手順を身に着けることができることで、理論的観点から高いレベルの論文作成ができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義へのITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。

・学生のモチベーションを上げる。
ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことができ、学生の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業でなく、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることも学生の学習に対するモチベーションを高める。

・学生も教員も楽しみながら、効率的な学習ができる。
学生も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えづらいことを、画像や動画などで視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、楽しみながら効率的な学習を進めることができる。

・学生が授業に積極的に参加しやすくなる。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、講義方式が変更になった場合、
不明な点は担当教員や教務部に必ず問い合わせること。
状況変化に合わせた対応に留意すること。

以下のオフィスアワーを利用して教員とコンタクトをとるように。

オフィスアワー　：　研究棟Ⅰ　1階　111号研究室 月・水・木　12：10～12：50